

山本せいごの議会だより

年頭のごあいさつ

忘非支す一せ国まし質 こか
れ々援べ行んのし、問ことら議さ
ず一をく政。よた公やのとは会て
頑を頂今の地う。約委間なやに私
張モき後チ方に町実員一り三送こ
るツ、もエ議与へ現会公ま回りと
所ト町引ツ会党地にな約し目出一
存一民きクのや方努ど一たのし山
でに目続機職野一力をに。正て本
す本線き能務党議し通基 月いせ
。年で皆一では会てじづ をたい
も一様をああにまてき 迎だご
初是の果るりははい発一 えい
心々ごた ま、り言般 るてを



精華町議会議員
山本せいご

一年もすよ嵐ま未 喜えれ
日で少幾りのた曾昨びらま後
をもあな多日中、有年申れし援
望早つかの本、世のはし、て会
むいたら事経日界災、上益は・
も震とず象済本中害東げ々つ支
の災推影がをで駆が日まごつ援
で復察響発根はけ発本す清が者
す興いを生底急巡生大。栄なの
。とた及しか激つし震 のく皆
経しぼ皆らなたたま災 こ新様
済まし様揺円不しと と年に
回すた方の高況たい とをお
復。一にがにの。う お迎か

山本せいごの一般質問 (平成23年12月議会)

「地域包括ケア」体制の充実について

「地域包括ケアシステム」とは、高齢者が住みなれた地域で医療、介護、福祉などのサービスを一体的に継続して受け、安心して暮らせる仕組みづくりとしての取り組みです。



質問 在宅医療・介護の緊急時の連絡体制や24時間対応する体制が求められる。本町の地域全体の医療と介護の現状はどうなっているか？

- ①在宅療養支援病院・診療所の状況は。
- ②訪問介護ステーションの開所と利用状況は。
- ③地域包括支援センターの役割りと実績は。
- ④各機関の連携体制の実績と整備状況は。
- ⑤在宅医療連携拠点の設置と今後の方向性は。
- ⑥介護する者の支援体制の現状と充実は。
- ⑦これらの町の果たす役割りと今後の方針は。

答弁

- ①本町で「近畿厚生局に届出されている在宅療養支援病院はない。診療所は2箇所ある。」
- ②精華町訪問看護ステーションは、平成11年4月より運営をしている。
本年4月から10月までの7ヶ月間の利用者は累計159名、訪問回数は累計1054回となっている。
- ③包括支援センターの役割りは、福祉の増進を包括的に支援をすることを目的としている。
社会福祉協議会に委託し、精華町包括支援センターとして取り組んでいる。
実績は、要介護者のケアプラン作成、権利擁護業務の相談、総合相談支援業務相談をしている。
包括的ネットワーク支援業務に関しては、対象者6名に対し119回の支援をおこなっている。
- ④各機関の連携は、月1回包括連絡会議や2ヶ月に1回介護支援専門員等連絡協議会をしている。
まず、町内の医療と介護の連携の強化を最優先する。町外の部分はそれ以降となる。
- ⑤本町では、多職種連携として、行政、主治医、包括支援センター、サービス提供事業所との連携を行っている。今後は、厚生労働省のモデル事業や国の動向に注目していきたい。
- ⑥介護をする者への支援体制としては、在宅介護者への激励金の支給や介護リフレッシュ事業として年3回、研修、学習会、日帰り旅行、見学会、交流会を実施している。
今後はさらに、介護者の心構えや介護の方法の研修内容に取り組んでいく。
- ⑦本年度に策定する第6次精華町高齢者保健福祉計画に盛り込んでいく。

- 現状の保健所・老人福祉施設・行政の連携グループだけでなく、診療所・歯科病院・訪問看護ステーション・薬局などのグループの連携、精華病院や学研都市病院などの病院関係の連携で情報交換などする中で、在宅患者や介護者のケアを総合的に推進できる連携拠点といえるのではないかと。そういった連携拠点が必要である。
- 町外からきている医療、介護関係者についても情報交換や行政同士の連携を深め、在宅介護、在宅医療に充分対応していただきたい。

議会だより (つづき)

消防本部の建設予定地選定について

質問

耐震強度と老朽化により早急に建て替えが必要である。
現在の場所で建て替えを決定された経緯を問う。

- ①何箇所の候補地から選定したか。
- ②選出時の検討項目と評価は。
- ③浸水想定は何メートルとしたか。
- ④建設費用の概算見込みは。
- ⑤建設費用の捻出は。
- ⑥建設時期はいつ。



答弁

- ①危険物施設、防火対象物、文化財等消火対象施設から精華町の中心に向かって5分30秒以内で到達できるルート範囲から2ヶ所に絞り込んだ。
新庁舎から目的地までの到達時間を6分30秒としている。山手幹線が完成すればすべてこの範囲で到達できるようになる。
- ②消火体制の確立、防災拠点としての機能、主要道路へのアクセス、用地確保にかかる法的事務処理など、検討した。
建設費用は、2ヶ所ほぼ同じような金額であるが現敷地の売却をすればその益は出てくる。
- ③浸水は防災マップに示す2m～5mと想定しているが、浸水の可能性は低いと考えている。
急激な水位の上昇は考えていない。水が近づいたら車両は役場庁舎側に移動を考えている。
東日本大震災のような想定外の問題については、想定していない。
- ④建設費用の概算は、必要施設・人員など精華町の実状を考慮し、適正な規模の算出をおこなう。
- ⑤建設費用は、補助金や交付金の他、消防庁舎建設基金設置などにより財源確保する。
- ⑥建設時期は、できるだけ早く計画的に建設に向けて課題解決に努めている。

- 再三の質問でようやく、以前から疑問の建設費用や災害時の想定の本音を聞き出せた。
- 財政面で工夫を凝らし、耐震問題も含め、職員の命、活動を守るという立場から早急に建て替えを要望した。

原発事故対応について



質問

福島原発事故による放射能の広がりには100キロを超える広範囲におよぶ。
精華町も若狭湾にある原発から約90～100キロ圏内にある。

- ①自然エネルギーに移行する施策は。
- ②太陽光発電の公共施設や祝園弾薬庫への設置は。
- ③補助金制度の設置の考えは。
- ④原発事故に対する本町での被害シミュレーションは。

答弁

- ①けいはんなエコプランのスマートグリッド(次世代送電網)や電気自動車の実証実験などの普及促進にかかる事業との連携を図っていく。また国の自然エネルギー移行の動向を注視していく。
- ②太陽光発電は、役場庁舎、川西小学校、ほうその保育所の3箇所に設置している。
今後の展開は、国や府の補助金等の活用による財源などの課題と合わせ検討したい。
祝園弾薬庫敷地に大規模な太陽光発電の設置を働きかける考えはない。
- ③町独自の補助制度は、国の動向を注視しながら慎重に進めたい。
- ④平成24年度から25年度にかけて見直しされる京都府地域防災計画に連携して本町の地域防災計画を見直していく。

- 町独自の制度について、自然エネルギーへの引き金としてもぜひ取り組んでいただきたい。
- 祝園弾薬庫への広大な敷地への設置は、提案として一度協議していただきたい。
- 学研都市として、自然エネルギーの発信基地としての取り組みをしていただきたい。

<議会一般質問報告 以上>

山本せいご後援会事務所

精華町大字南稲八妻小字門口71

: TEL/FAX

: Eメール

: ホームページ

0774-95-6288

seigo722@balloon.ne.jp

http://www.balloon.ne.jp/seigo722/